



白井健二さん
 自然との共生をテーマにしたエコ&パーマカルチャー・コミュニティ『シャロム』を主宰。雨水を利用した中水道システム作りも進めている。

地図 シャロムへの道

PERMA  CULTURE

シャロムの 考えて使う水

「食糧、エネルギー、それから水。この3つさえ確保すれば、人はある程度の生活はできるんですよ」と、『シャロム』の白井さん。今回は、この3要素のひとつ「水」にクローズアップしてみよう。

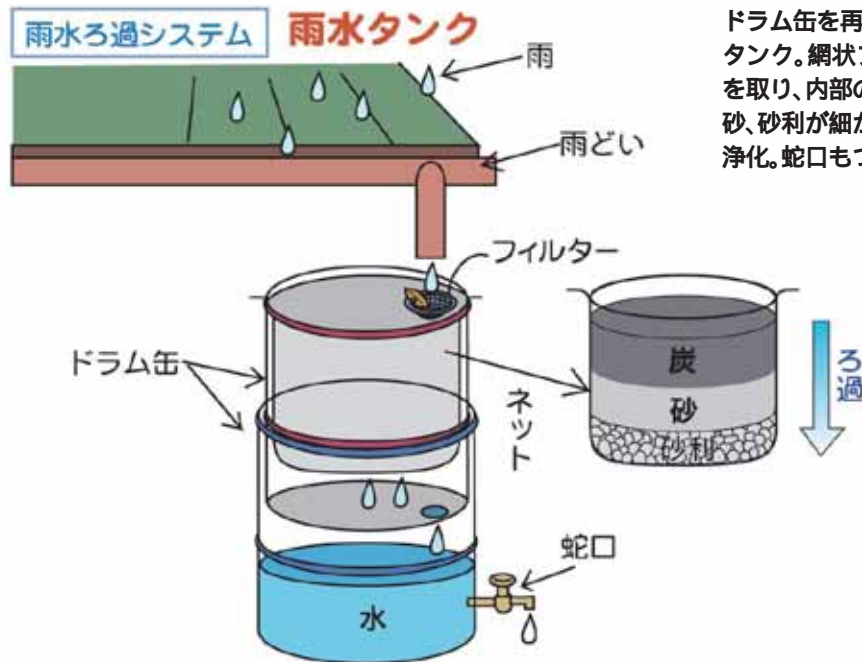




シャロム内の屋外保育園のトイレ脇にも、雨水タンクが置かれている。



「ポーフラがわくようなら、金魚でも入れておけば？（白井さん）」



ドラム缶を再利用したシャロムの雨水タンク。網状フィルターで大きなゴミを取り、内部のネットに入れられた炭、砂、砂利が細かいゴミを取り除き、水を浄化。蛇口もついた優れたものだ。

PERMA  CULTURE

恵みの雨水を蓄える、サブシステムとして使う

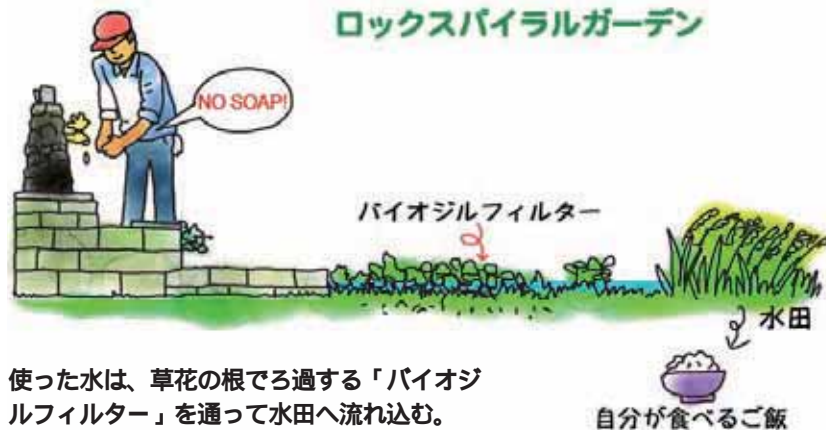
シャロムを訪れると、ドラム缶がいたるところに置かれているのに気づく。屋外トイレの脇、母屋の軒下、レストランの裏側など、あそこにも、ここにもーと、見つけるのが楽しくなるほど、たくさんある。

「雨水タンクですよ。空から降ってくる雨をほんの少し、お裾分けしてもらおうと思って」

ドラム缶が置かれているのは、雨樋の下。水を溜めているだけのものも、ろ過装置や蛇口付のものもある。「日本には立派な上水道があるんだから、雨水を飲料水になるまでろ過しようとは思わないです。ただ、いざという時のサブシステムとして、雨水を溜めておくのは、とても大事なことだと思えますね」

シャロムでは、雨水をトイレの水にも利用できるだけの設備は整っている。ただ、雨水を循環させるための電気代の方が、水道代よりも高いというのが現実。雨水タンクは、サブシステムとしていつでも使えるようにスタンバっているのだ。

フィルターの仕組み



使った水は、草花の根でろ過する「バイオジルフィルター」を通して水田へ流れ込む。



「ロックスパイラルガーデン」の「インプット」は、小鳥の形の取っ手がついた蛇口。水道水なので飲料としても使用可能。水の流れる先(左)には稲穂が育っている。これが「アウトプット」。

「無駄にしない、汚さない、
「水」意識を高める

PERMA  CULTURE

アクリルたわしでちょこっとエコ



シャロムの台所では「アクリルたわし」を使用。古い化繊毛糸をかぎ編みするだけの簡単なものだが、油污れも洗剤を使わず、これとお湯だけで充分落ちる。水を余分に使わない工夫だ。

「日本には立派な上水道がある」と臼井さんはいふ。確かに日本は、世界的に見ても非常に水に恵まれた国なのだ。水道水は当たり前のように使うことができ、トイレの下水にだって飲み水と同じ水を使っているくらいの贅沢ぶりだ。「でも、今後、世界は水に関する危機に直面するようになるかもしれません。中国の黄河は、6月の乾期には干上がってしまっそう。それで周辺の穀倉地帯にも打撃があるんですね」

世界を見渡した時、もう少しだけ水を大切にしたいと、気づかされる。そんな意識を高めてくれるちょっとした仕掛けがあるのが、シヤロムの「ロックスパイラルガーデン」だ。

水道水のある生活をしていると、自分が手を洗った水が流れ行く先は見えない。でも、もしその水が目の前の水田に流れ込み、そこで稲が育っているのを見えたら？「洗剤は使えないな」と、自然に思うようになる。洗剤を使わなければ、使う水の量も減る。インプット、アウトプットがよく分る仕組みになっている。ちょっとした工夫が、「水」意識を高めてくれ

隣家の屋根の雨樋から「路地尊」に水をく。1) 雨水はこの装置でろ過される。2) ろ過装置の内部。原理は白井さんの雨水タンクと同じ。



手押しポンプ型の「路地尊」がある“エロ路地”。地中に10tのタンクが埋まる。

家庭用貯水タンク「天水尊」(250 6万円~)の生みの親、徳永暢男さん。「豊富な雨水を利用しない手はないだろ？ 普段は花に水をやったり、雑水として使えばいい。飲み水と同じ水で花に水をやってたんじゃ、もったいないよ」



水を尊ぶ下町の底力が 国技館貯水タンクに発展？

水に関する取組みは、安曇野のような自然豊かな土地だけで行われているわけではない。例えば、東京の下町・東向島には、地域を火災から守る埋め込み型貯水タンク「路地尊」と、家庭用雨水タンク「天水尊」がある。「木造住宅の密集する東向島は、災害に弱い地域。この町に住みたい、子供たちにもこの町を残したいのなら自分たちの手でこの町を守るしかないと思ってる」

東向島のNPO団体「雨水市民の会」理事長の徳永暢男さんはこう語る。徳永さんたちが25年前に考案したのが、雨水タンク「路地尊」だ。消防車が引き揚げた後で再び火が出た時、溜めた雨水で火を消した事例もある。その後、徳永さんたちのアイデアを聞きつけた墨田区職員が、両国国技館建設時に地下に1000³mの雨水タンクを設置することを立案した。もともと、国技館のタンクは都市型洪水に備えた「受け皿」が主な目的。災害時には約1万人を1カ月生かすだけの飲み水にもなるが、通常はトイレの洗浄水や植栽への散水、空調に利用して水道水を節約している。東京ドームなど、今では地下にこういった貯水タンクを設置した施設が増えている。下町から生れた雨水利用のアイデアは、都市型貯水システムへと発展。そして現在、徳永さんたちはバンングラディッシュをはじめとする、水不足に苦しむ海外の地域でも雨水利用の指導を行っている。



樋の長さを調節して「天水尊」に繋げる。家族で取り付ければ雨が降るのが楽しみになる？



シャロムへの道

新宿から JR 中央線直通特急(白馬行き)利用で3時間11分、大系線穂高駅下車、6,620円。
穂高からタクシー利用約10分。車の場合、中央自動車道長野線豊科ICで降りて20分ほど。



MAGAZINE'S
SOOK <http://www.magsook.jp>

✕ 閉じる

シャロム・コミュニティと農園の全体図

Shalom community map

PERMA CULTURE



雨水タンク

ドラム缶を再利用した雨水貯水用タンク。雨樋の下に設置。ろ過装置や蛇口付のものも。

シャロム・ヒュッテ

設計から木の切り出し、組み立て、配管、壁塗りなどを行って建てた半セルフビルドの宿泊施設。

森の家

泥や砂、石灰を強く叩いて作った土台の上に建つ二階建ての家。1階はストーブのある土間敷き。

森の台所

土や粘土をこねて作ったユニークな形のアースオープン(窯)。煮炊きもピザを焼くこともでき

チキンホットハウス & やぎ小屋

鶏の体温で空気が暖まることを利用した温室。隣はやぎ小屋。どちらも屋根は草が茂る草屋根だ。

コンポストトイレ (堆肥トイレ)

落ち葉などを利用して自然分解するから臭わない。むしろ草屋根に生えるミントがいい香り!?

ツリーハウス

木の幹の上にまたがって作られたツリーハウス。森の幼稚園の子供たちのかっこうの遊び場だ。

メタンガス発行装置

産業廃棄物のドラム缶を利用したメタンガスの発酵装置。薪が使えない時のサブシステムになる。

チキントラクター

シャロムの耕運機はガソリン不要。2羽のニトリが、せせせと畑を耕し、肥料をまいてくれる。

エコショップ 「シャンテバザール」

エコ関連グッズやフェアトレード商品を販売。屋根の上には自転車と雨どい製の風力発電機も。

ロックスパイラルガーデン (石の渦巻き)の庭とキーホールガーデン (鍵穴)の庭

庭の水道の排水は米を植えた池に流れ込む。自分の使う水の行く先は一目瞭然。洗剤は使えない。

⑩オーガニック レストラン&カフェ

目の前の畑で穫れる野菜や穀物を使った料理、石窯で焼く天然酵母パンやピザを召し上げ。

⑪自然農薬の畑

土を耕さず、虫や草を敵としない自然農やパーマカルチャーの畑では、草も野菜も元気に成長中。

☒ 閉じる